



# つみきのくらし

日々の暮らしの中で、こども園つみきとして大切にしたいことや、こどもとおとなの素敵な姿をお伝えしていきます。

井鳥 佳織



NO.24

## ホンモノを使う

子どものおもちゃやスコップなどは、プラスチックでできているものがほとんどですね。軽く、扱いを間違えても怪我はほぼしません。本物(大人が使用するもの)は、作業が効率良く進むために鉄製等の丈夫な物だったり、大きく、形状は尖っていたりなど使い方を誤るとケガをしてしまいます。

しかし、世の中の気遣いをよそに、多くの子どもは本物が好きです。大人が使っているものを子どもは使ってみたいのだと感じることが、暮らしの中に多々あります。

例えば、園庭のスコップですが、子どもサイズの剣先スコップとプラスチックのスコップとでは、圧倒的に剣先スコップを手に取り、地面へのスムーズな刺さり具合に手ごたえを実感しています。また、ほうきで例えると、こども用に片手で使えるミニほうきを用意しても、大人が使っている物を貸して欲しがります。貸すと、大きいほうきを両手で持って不自由そうに使いますが、満足気にしています。

このような、「本物の手ごたえ」「大人と同じものを使いたい」を極力叶えるために、園庭にはプラスチック性の物と剣先スコップ・フライパン・おたまなどの本物を用意しています。その理由としては、本物の手ごたえを感じる他に、本物の危なさ(ヒヤリ)を大人の見守りの中で、こうしたら危ないを感じ取り、小さな失敗(ヒヤリ)を経験し、正しい扱いや扱う時の危険への意識を知ることにも繋がっていくと考えているからです。

こうした考えを基に、先日、園の畑で収穫したジャガイモを包丁で切り、フライドポテトにして食べました。3~5歳児のやってみたい子を募り大人と一緒に切りました。慣れている子もいれば、包丁を意識しながら慎重に切る子などそれぞれでした。また、「見ている」「本物の包丁が怖いからやらない」と選択した子もいましたので、その今の気持ちを尊重しています。今後も、調理の体験を増やしていく予定ですので「やってみよう」の気持ちがその子のタイミングで芽生えていくことを楽しみにしています。また、食育の観点からも、自分で調理したものを食べる喜びを感じ、食への関心を高めることも大切にしていきたいです。



本物を扱う緊張感を感じます。



テラスで揚げました。



「いただきます!」

## 気分爽快!!



手首に入った雪は最高に冷たい・・・。

待ちに待っていた雪が、ようやく積もりました!朝から子どもも大人もワクワクな雰囲気は漂っていました。1年ぶりのそり滑りは「楽しすぎる~♪」そして、滑ったあとはなんだかスツキリ!気分爽快!